

報道発表資料の配付日時 3月10日(金)15時00分

<p>発表項目 (行事名)</p>	<p>令和4年度(2022年度)第2回タンチョウ越冬分布調査の結果について</p>																				
<p>概要</p>	<p>【ポイント】 絶滅危惧種タンチョウの越冬分布・規模の把握等を目的として毎年実施している本調査について、次のとおり今年度2回目の調査を実施しました。</p> <p>1 調査実施日時等</p> <table border="1" data-bbox="422 645 1442 873"> <tr> <td></td> <td>令和4年度(2022年度)第2回</td> <td>[参考] 令和3年度(2021年度)第2回</td> </tr> <tr> <td>調査日時</td> <td>1月24日(火) 14:45~15:15</td> <td>1月25日(火) 14:45~15:15</td> </tr> <tr> <td>調査区域</td> <td>8振興局 41市町村</td> <td>7振興局 35市町村</td> </tr> <tr> <td>調査箇所</td> <td>計348箇所(野生345箇所)</td> <td>計306箇所(野生303箇所)</td> </tr> <tr> <td>調査協力者</td> <td>関係市町村・給餌人など計181人</td> <td>関係市町村・給餌人など計171人</td> </tr> </table> <p>※ 環境省委嘱給餌場である鶴見台、鶴居・伊藤サンクチュアリ及び阿寒国際ツルセンターと、北海道委嘱給餌場である高橋給餌場及び丸山給餌場及びその近接地区は、各給餌場の給餌時間帯に調査を実施しました。</p> <p>2 タンチョウ確認羽数</p> <table border="1" data-bbox="422 1003 1442 1193"> <tr> <td>令和4年度 (2022年度) 第2回</td> <td>合計:1,344 [成鳥:1,173、幼鳥:130、不明:2、飼育個体:39] うち野生個体:1,305 [釧路:1,172、十勝:82、根室:47、日高:4]</td> </tr> <tr> <td>令和3年度 (2021年度) 第2回</td> <td>合計:1,525 [成鳥:1,359、幼鳥:90、不明:40、飼育個体:36] うち野生個体:1,489 [釧路:1,382、十勝:73、根室:34]</td> </tr> </table> <p>3 今回の調査結果に対する有識者コメント概要 (有識者:正富 宏之 専修大学北海道短期大学名誉教授)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 確認羽数について、前年度同期より184羽(野生個体)少ないが、実質羽数は昨年並み。 ○ 幼鳥の数は前年度同期より40羽増えており、繁殖はほぼ順調と推測。 ○ 生息地の分散を踏まえ、分布や個体数の十分な把握のための新たな調査方法の検討が必要。 			令和4年度(2022年度)第2回	[参考] 令和3年度(2021年度)第2回	調査日時	1月24日(火) 14:45~15:15	1月25日(火) 14:45~15:15	調査区域	8振興局 41市町村	7振興局 35市町村	調査箇所	計348箇所(野生345箇所)	計306箇所(野生303箇所)	調査協力者	関係市町村・給餌人など計181人	関係市町村・給餌人など計171人	令和4年度 (2022年度) 第2回	合計:1,344 [成鳥:1,173、幼鳥:130、不明:2、飼育個体:39] うち野生個体:1,305 [釧路:1,172、十勝:82、根室:47、日高:4]	令和3年度 (2021年度) 第2回	合計:1,525 [成鳥:1,359、幼鳥:90、不明:40、飼育個体:36] うち野生個体:1,489 [釧路:1,382、十勝:73、根室:34]
	令和4年度(2022年度)第2回	[参考] 令和3年度(2021年度)第2回																			
調査日時	1月24日(火) 14:45~15:15	1月25日(火) 14:45~15:15																			
調査区域	8振興局 41市町村	7振興局 35市町村																			
調査箇所	計348箇所(野生345箇所)	計306箇所(野生303箇所)																			
調査協力者	関係市町村・給餌人など計181人	関係市町村・給餌人など計171人																			
令和4年度 (2022年度) 第2回	合計:1,344 [成鳥:1,173、幼鳥:130、不明:2、飼育個体:39] うち野生個体:1,305 [釧路:1,172、十勝:82、根室:47、日高:4]																				
令和3年度 (2021年度) 第2回	合計:1,525 [成鳥:1,359、幼鳥:90、不明:40、飼育個体:36] うち野生個体:1,489 [釧路:1,382、十勝:73、根室:34]																				
<p>参考</p>	<p>資料1「令和4年度(2022年度)第2回タンチョウ越冬分布調査の結果について」を添付</p>																				
<p>報道(取材)に当たってのお願い</p>																					
<p>他のクラブとの関係</p>	<p>同時配付 同時レク 記者レク</p> <p>道政記者クラブ、釧路及び根室の各(総合)振興局で同時配付します。</p>																				
<p>その他</p>	<p>本調査では、関係市町村をはじめ、多くの関係者の方々の御協力をいただいております。</p>																				
<p>担当 (連絡先)</p>	<p>北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係(担当者:村上秀樹) TEL 0155-26-9028(直通)</p>																				

令和4年度（2022年度）第2回タンチョウ越冬分布調査の結果について

1 調査の趣旨

本調査は、絶滅危惧種のタンチョウの越冬分布・規模の把握等を目的に、給餌人等のご協力のもと、環境省委嘱給餌場等の大規模給餌場を中心に、タンチョウの飛来数、幼鳥の有無等を把握するとともに、関係機関等のご協力のもと、給餌場、自然採餌場や農家の存在等の分布要因に着目して、タンチョウの所在位置情報について収集しました。

2 調査日時

令和5年（2023年）1月24日（火）午後2時45分～午後3時15分

※ 環境省委嘱給餌場である鶴見台、鶴居・伊藤サンクチュアリ及び阿寒国際ツルセンターと、北海道委嘱給餌場である高橋給餌場及び丸山給餌場及びその近接地区は、各給餌場の給餌時間帯に調査を実施

3 調査区域及び調査箇所

(1) 調査区域 8(総合)振興局、41市町村管内のタンチョウ生息地及び飛来地全域

(2) 調査箇所 合計348箇所

○調査地点所在市町村数の推移

(市町村)

振興局	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
釧路	8	8	8	8	8	8
十勝	15	16	11	12	11	7
根室	4	4	4	3	4	3
オホーツク	4	4	5	3	5	4
宗谷	4	-	4	-	3	-
日高	2	2	2	3	2	3
胆振	4	3	4	3	4	3
空知	3	3	2	3	1	1
石狩	1	1	1	-	3	1
後志	1	-	-	-	-	-
合計	46	41	41	35	41	30

○調査箇所数の推移

(箇所)

振興局	令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
釧路	187	173	203	182	192	173
十勝	118	89	78	78	64	58
根室	49	43	19	15	21	16
オホーツク	15	12	15	7	15	8
宗谷	8	-	6	-	6	-
日高	9	7	5	8	6	8
胆振	21	6	13	8	14	9
空知	9	15	8	8	2	2
石狩	2	3	3	-	4	1
後志	1	-	-	-	-	-
合計	419	348	350	306	324	275

4 調査主体及び調査協力機関等

(1) 調査主体

北海道（環境省委託）

(2) 調査協力機関等

市町村、市町村教育委員会、釧路市動物園、タンチョウ給餌人、日本航空株式会社、鳥獣保護監視員など

○調査協力者数

振興局	総計 (人数)	内 訳				
		関係市町村	関係市町村 教育委員会	タンチョウ 給餌人	鳥獣保護監 視員等	その他
釧路	130	32	10	12	11	65
十勝	28	21			1	6
根室	14	1	5	3	1	4
オホーツク	0					
日高	2	1				1
胆振	1					1
空知	3	2			1	
石狩	3	3				
合計	181	60	15	15	14	77

※本庁、振興局職員を除く。

5 タンチョウ確認羽数（振興局別）

(羽)

振興局	令和4年度第1回				令和4年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
釧路	577	74	17	668	1,049	121	2	1,172
十勝	182	16	0	198	79	3	0	82
根室	44	6	0	50	41	6	0	47
オホーツク	0	0	0	0	0	0	0	0
宗谷	2	0	0	2	-	-	-	-
日高	5	1	0	6	4	0	0	4
胆振	6	0	0	6	0	0	0	0
空知	2	1	0	3	0	0	0	0
石狩	0	0	0	0	0	0	0	0
後志	0	0	0	0	-	-	-	-
小計	818	98	17	933	1,173	130	2	1,305
飼育個体	34	5	0	39	34	5	0	39
合計	852	103	17	972	1,207	135	2	1,344

<過去2カ年実績>

(羽)

振興局	令和3年度第1回				令和3年度第2回				令和2年度第1回				令和2年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
釧路	666	58	0	724	1,265	80	37	1,382	693	110	61	864	1,240	129	23	1,392
十勝	126	9	0	135	65	5	3	73	126	16	0	142	44	6	0	50
根室	14	1	0	15	29	5	0	34	28	9	0	37	23	4	0	27
オホーツク	8	1	0	9	0	0	0	0	4	1	0	5	0	0	0	0
宗谷	0	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-
日高	8	2	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	6
胆振	3	0	0	3	0	0	0	0	6	2	0	8	2	1	0	3
空知	2	1	0	3	0	0	0	0	2	1	0	3	0	0	0	0
石狩	2	0	0	2	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0
後志	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小計	829	72	0	901	1,359	90	40	1,489	859	139	61	1,059	1,314	141	23	1,478
飼育個体	35	1	0	36	35	1	0	36	36	2	0	38	36	2	0	38
合計	864	73	0	937	1,394	91	40	1,525	895	141	61	1,097	1,350	143	23	1,516

※「-」は調査を実施しなかったもの。「0」は調査を実施したが確認できなかったもの。

※各年度の確認羽数の推移については別添グラフ参照。

6 調査当日の気象状況

○令和4年度第2回調査（令和5年1月24日 午後3時）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	曇	-2.7℃	西	1.8 m/s	釧路地方気象台
十勝	曇	-4.2℃	北西	4.2 m/s	帯広測候所
根室	曇	-2.7℃	北北西	2.2 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	-3.7℃	北北西	1.8 m/s	網走地方気象台
日高	曇	-6.8℃	北	3.9 m/s	室蘭地方気象台
胆振	曇	-7.8℃	北北西	7.5 m/s	室蘭地方気象台
空知	曇	-9.2℃	北西	5.6 m/s	札幌管区気象台
石狩	曇	-8.3℃	北	5.8 m/s	札幌管区気象台

※<参考>令和3年度第2回調査（令和4年1月25日 午後3時）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	晴	-2.0℃	西南西	4.0 m/s	釧路地方気象台
十勝	晴	-3.7℃	北東	1.6 m/s	帯広測候所
根室	曇	-3.4℃	北北西	6.6 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	-3.9℃	北西	2.7 m/s	網走地方気象台
日高	晴	-0.8℃	北西	1.7 m/s	室蘭地方気象台
胆振	晴	-2.0℃	西北西	0.5 m/s	室蘭地方気象台
空知	晴	-3.2℃	北北西	0.4 m/s	札幌管区気象台

※<参考>令和2年度第2回調査（令和3年1月26日 午後3時）

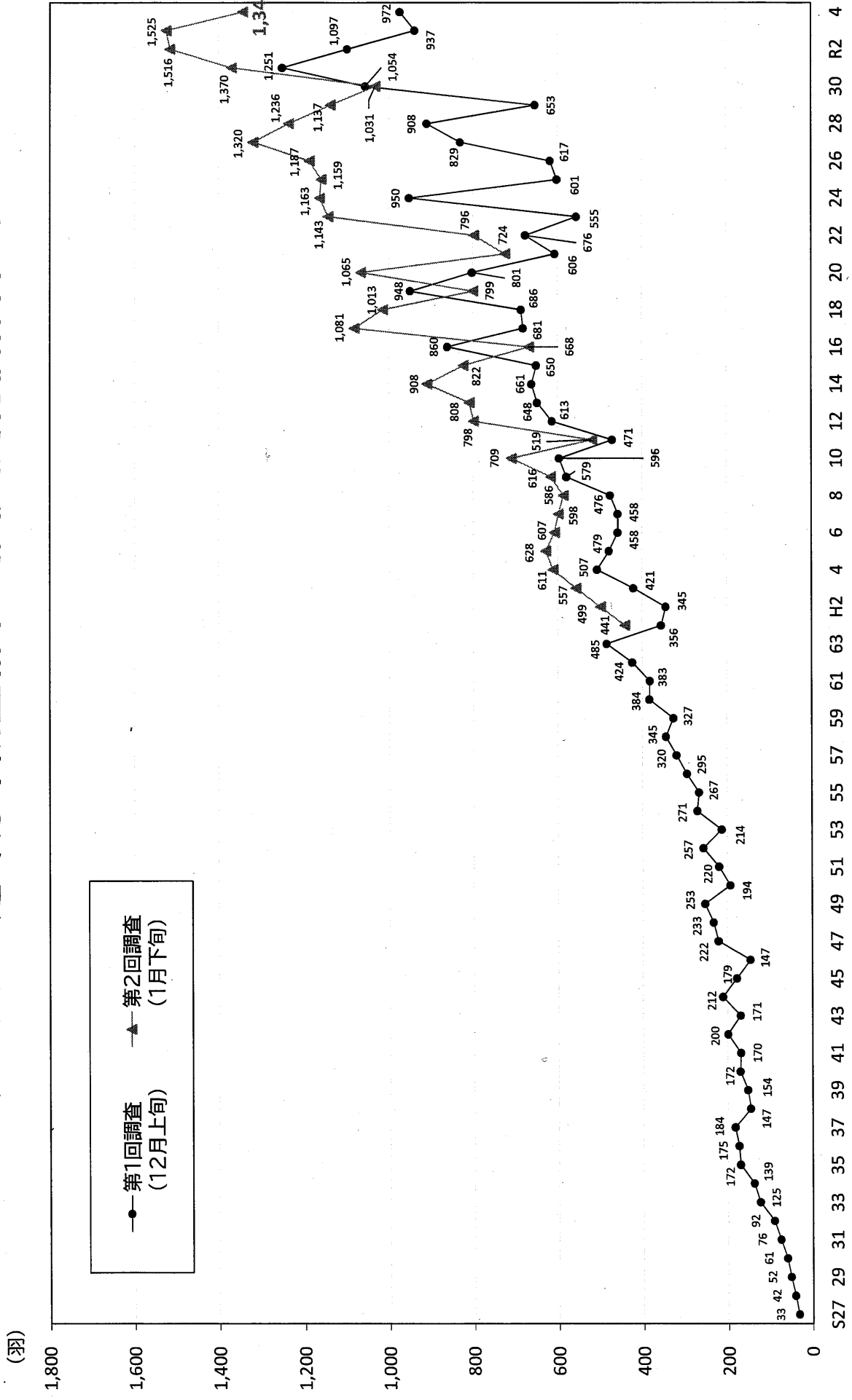
振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	曇	-5.3℃	南南東	2.8 m/s	釧路地方気象台
十勝	曇	-5.9℃	東	0.9 m/s	帯広測候所
根室	晴	-7.1℃	東南東	2.4 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	-8.5℃	東	2.3 m/s	網走地方気象台
日高	曇	-0.5℃	南東	7.1 m/s	室蘭地方気象台
胆振	雪	-1.9℃	南東	5.5 m/s	室蘭地方気象台
空知	曇	-1.2℃	南	3.6 m/s	札幌管区気象台
石狩	曇	-1.3℃	南南東	5.0 m/s	札幌管区気象台

7 タンチョウ確認羽数(市町村別)

(羽)

市町村	令和4年度第1回				令和4年度第2回				
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	
釧路	釧路市釧路	31	11	0	42	12	4	0	16
	釧路市阿寒町	22	5	0	27	95	15	0	110
	釧路市音別町	51	5	5	61	182	18	0	200
	釧路町	5	2	0	7	2	1	1	4
	厚岸町	4	1	0	5	0	0	0	0
	浜中町	49	5	0	54	70	12	0	82
	弟子屈町	24	4	0	28	0	0	0	0
	標茶町	138	11	1	150	159	21	1	181
	鶴居村	242	27	11	280	529	50	0	579
	白糠町	11	3	0	14	0	0	0	0
十勝	帯広市	2	1	0	3	0	0	0	0
	中札内村	0	0	0	0	0	0	0	0
	更別村	0	0	0	0	0	0	0	0
	大樹町	85	5	0	90	45	1	0	46
	広尾町	4	0	0	4	0	0	0	0
	幕別町	51	3	0	54	18	2	0	20
	池田町	6	2	0	8	0	0	0	0
	豊頃町	26	3	0	29	8	0	0	8
	浦幌町	4	1	0	5	8	0	0	8
	音更町	4	1	0	5	0	0	0	0
	上土幌町	0	0	0	0	0	0	0	0
	足寄町	0	0	0	0	0	0	0	0
	陸別町	0	0	0	0	0	0	0	0
	本別町	0	0	0	0	0	0	0	0
	鹿追町	0	0	0	0	0	0	0	0
	清水町	-	-	-	-	0	0	0	0
根室	根室市	8	0	0	8	4	2	0	6
	別海町	17	1	0	18	20	3	0	23
	標津町	2	2	0	4	0	0	0	0
	中標津町	17	3	0	20	17	1	0	18
オホーツク	網走市	0	0	0	0	0	0	0	0
	小清水町	0	0	0	0	0	0	0	0
	斜里町	0	0	0	0	-	-	-	-
	美幌町	-	-	-	-	0	0	0	0
	大空町	0	0	0	0	0	0	0	0
宗谷	豊富町	2	0	0	2	-	-	-	-
	浜頓別町	0	0	0	0	-	-	-	-
	枝幸町	0	0	0	0	-	-	-	-
	幌延町	0	0	0	0	-	-	-	-
日高	日高町	5	1	0	6	4	0	0	4
	新冠町	0	0	0	0	0	0	0	0
胆振	むかわ町	2	0	0	2	-	-	-	-
	厚真町	2	0	0	2	0	0	0	0
	安平町	0	0	0	0	0	0	0	0
	苫小牧市	2	0	0	2	0	0	0	0
空知	長沼町	2	1	0	3	0	0	0	0
	栗山町	0	0	0	0	0	0	0	0
	由仁町	0	0	0	0	0	0	0	0
石狩後志	千歳市	0	0	0	0	0	0	0	0
	小樽市	0	0	0	0	-	-	-	-
小計		818	98	17	933	1,173	130	2	1,305
飼育個体		34	5	0	39	34	5	0	39
合計		852	103	17	972	1,207	135	2	1,344

タンチヨウ越冬分布調査結果の推移(飼育個体含む)



(調査年度)

令和4年度(2022年度)第2回タンチョウ越冬分布調査結果(振興局別、土地利用状況、給餌の有無等による分布状況)

1 振興局別の分布(飼育個体を除く) (単位:羽)

振興局	成鳥	幼鳥	不明	計
釧路	1,049	121	2	1,172
十勝	79	3	0	82
根室	41	6	0	47
日高	4	0	0	4
合計	1,173	130	2	1,305

※飼育個体を除いた野生個体1,305羽について分析を行っています。

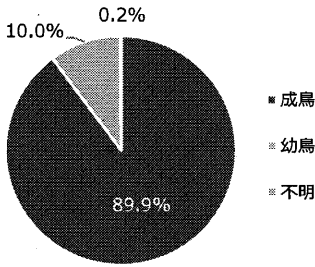


図1-1 成鳥・幼鳥・不明の割合

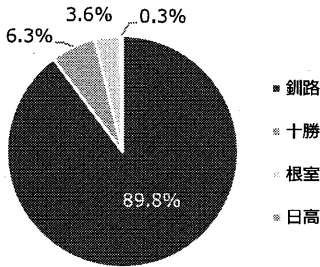


図1-2 振興局別の分布割合

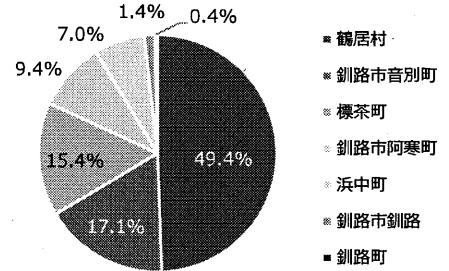


図1-3 釧路管内の分布割合

2 土地利用状況別の分布 (単位:羽)

振興局	畑・牧草地	農家・農地の堆肥	パドック	その他農家敷地	河川・湿地	その他	計
釧路	322	89	42	207	125	387	1,172
十勝	30	2	0	36	8	6	82
根室	8	6	15	16	0	2	47
日高	2	0	0	0	2	0	4
合計	362	97	57	259	135	395	1,305

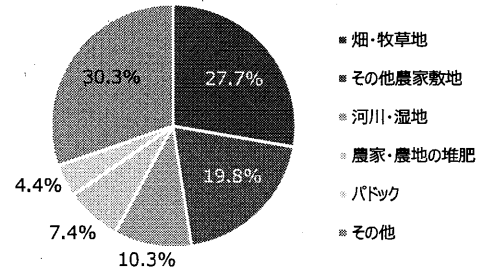


図2 土地利用状況別の分布割合

3 給餌の有無別の分布 (単位:羽)

振興局	給餌あり		給餌なし	計
	うち5大給餌場			
釧路	822	723	350	1,172
十勝	0	0	82	82
根室	3	0	44	47
日高	0	0	4	4
合計	825	723	480	1,305

⇒ 3' 給餌なしの観察場所における土地利用状況別の分布 (単位:羽)

振興局	畑・牧草地	農家・農地の堆肥	パドック	その他農家敷地	河川・湿地	その他	計
釧路	22	89	42	66	121	10	350
十勝	30	2	0	36	8	6	82
根室	8	6	15	13	0	2	44
日高	2	0	0	0	2	0	4
合計	62	97	57	115	131	18	480

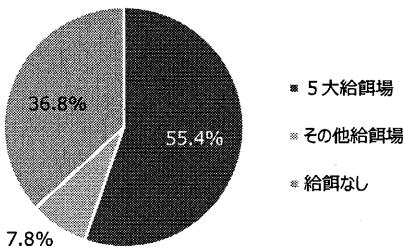


図3-1 給餌の有無別の分布割合

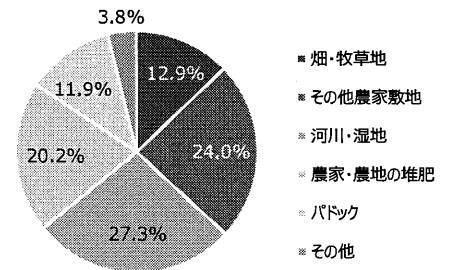


図3-2 給餌なしの観察場所における土地利用別の分布割合

4 50m以内の農家の有無別の分布 (単位:羽)

振興局	あり	なし	計
釧路	608	564	1,172
十勝	51	31	82
根室	23	24	47
日高	2	2	4
合計	684	621	1,305

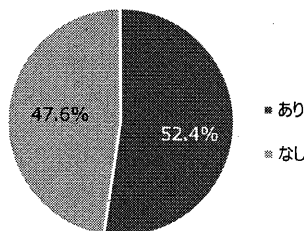


図4 50m以内の農家の有無別の分布割合

2023年2月27日

2023年1月24日（令和4年度第2回）実施の

タンチョウ越冬分布調査結果について

正富宏之

はじめに

2023年1月24日の15時を中心とする30分間に、北海道内で目撃されたタンチョウの位置、幼鳥・成鳥（野外での判別困難のため亜成鳥は成鳥に含める）別羽数、所在地の環境などが記録された。ただ、定時の観察だけでは羽数の確実な把握ができないため、鶴居村ではねぐらや大規模給餌場での午前の観察記録が採用されている。

なお、このコメントでは、これまでと同様に飼育下の個体は対象外とし、年度内の第1回調査を「12月調査」、第2回調査を「1月調査」と記したほか、行政区を示す際に振興局の表記を省略してある。

1. 記録羽数とその特徴

1-1. 羽数と増減割合

羽数：記録羽数は成鳥1,173羽、幼鳥130羽、成・幼鳥不明2羽の計1,305羽で、今年度12月調査（2022年12月2日実施）より成鳥で355羽増、幼鳥32羽増、不明15羽減で、合計では372羽多かった。これは過去最多を記録した昨年と比べ、成鳥で186羽減、幼鳥40羽増、不明38羽減の計184羽少なかったことになる。ただ、前年より成鳥数や合計数が大幅に少なかったのに対し、幼鳥数は調査開始（1952年）以来4番目に多い羽数を示した。

増減割合：今回の記録羽数と12月調査のそれを比べると、成鳥は1.4倍、幼鳥は1.3倍を示したのに対し、不明鳥の割合が低下し、合計も1.4倍ほどであった。しかし、前年同期の羽数と比べると、成鳥は13.7ポイントも少ないのに対し、幼鳥は44.4ポイントの増加を示し、総数では12.4ポイントの減となっている。

1-2. 各給餌場の飛来数

いわゆる五大給餌場（阿寒・下雪裡・中雪裡は環境省管理、音別・中茶安別は道の管理）では、下雪裡給餌場（通称鶴見台、以下給餌場を省略）での羽数が204羽で最も多く、次いで音別の160羽、中雪裡144羽、中茶安別141羽、阿寒74羽の順となる。羽数の点では最多の下雪裡と、最少の阿寒の順位は前年と変わらないが、前年2番目に多かった中茶安別が、前年4番目の音別と入れ替わり、5大給餌場の最多と最少の羽数差も130羽で、前年の244羽差（下雪裡309羽、阿寒65羽）に比べ大幅に縮小した。

1-3. 個体数について

記録羽数は、過去最多を示した昨年より184羽も少ない。これを管内別にみると、主要な越冬地である十勝、釧路、根室の3管内のうち、十勝では過去2番目、根室では過去最多といずれも前年より増加したのに対し、釧路では210羽も減っている。五大給餌場だけを見ても、下雪裡で105羽、中茶安別で60羽

も前年より少なく、自治体別では中茶安別を含む標茶町で 77 羽も減少した。他方、五大給餌場以外の点在する小給餌場（給餌なしのところも含む）の羽数は前年とほぼ同数（前年 592 羽、今年 582 羽）を示している。

従って、今年の前年比羽数減の結果は、調査日の実際の調査状況も勘案すると、一挙に 200 羽近く実際に数が減少したのではなく、主に釧路管内の主要なタンチョウ越冬地域で見落としした個体が多かったことに起因すると言ってよい。例えば、今年標茶町で通常数十羽が現れる地域なのに、調査では数羽しか記録されていない例もあり、現存の実質羽数は、少なくとも昨年を大きく下回ることはないと思われる。

2. 分布状況

2-1. 分布管内数

今回タンチョウの生息が記録されたのは日高、十勝、釧路、根室の 4 管内で、12 月よりも 3 管内少なく、前年同期と比べて 1 管内増えたことになる。ただ、今回調査時は目撃できなかったが、上記以外の 2 管内でも調査時に生息が別途確実視されているため、実質今冬は 6 管内で生息していたとみなして良いであろう。なお、当該調査関連でのこれまでの最多確認管内数は 5 管内である。

2-2. 各管内への集中度

各管内で目撃した羽数の割合は、多い順に釧路が全体の 89.8%、十勝 6.3%、根室 3.6%、日高 0.3% となる（図 1-2 参照）。前年に比べて釧路 3.0 ポイント減、十勝 1.4 ポイント増、根室 1.3 ポイント増、日高 0.3 ポイント増となり、釧路への集中が全体の 90% を割るのは当該調査過去 20 年間では初めてと言える。さらに、2009-2013 年（5 年）間における釧路への集中割合の平均は 96.4% であるのに対し、最近 5（2018-2022）年間の平均は 92.6% と 3.8 ポイント低い値を示し、一見釧路から他管内への分散が進行しているかのように見える。しかし、近年の目撃総羽数増加・釧路管内の記録羽数増加・今年度のような多数のカウント漏れ等を考慮すれば、当該調査の結果を見る限り、依然として釧路管内への集中が継続しているとしてよい。

2-3. 市町村別の分布

自治体でタンチョウが認められたのは 2 市 10 町 1 村の計 13 自治体で、12 月調査と比べると 2 市 11 町、前年 1 月調査とでは 2 町少ない。ただ、当該調査以外の記録・情報も含めると、3 市 12 町 1 村となり、前年の記録を 1 市上回り、今年タンチョウが新規に目撃された自治体も 2 町含まれることになる。

自治体の中で最多羽数を記録したのは鶴居村で、前年同期より 68 羽少なかったものの 579 羽を数え、2 位となる釧路市（音別町や阿寒町を含む）の 326 羽（管内の 27.8%、記録総羽数の 25.0%）を大きく引き離し、釧路管内の 49.4% を占め（図 1-3 参照）、今回の記録総羽数の中でも 44.4% を示している。年により数値に多少の変動はあるが 2008 年以降の 15 年間で鶴居村の羽数はやや増加傾向を示し、管内羽数や全体羽数の中での割合もほぼ類似の値を示す。なお、羽数の多い記録の 3 位は釧路管内標茶町の 181 羽で、ここまでの上位 3 者の合計は総数の 83.2% を占め、前年より 3.6 ポイント低い。さらに、記録数の 4 位は釧路管内浜中町 82 羽、5 位は十勝管内大樹町の 46 羽などで、5 位までの順位は前年と変わらない。

2-4. 利用環境

調査時にタンチョウを確認した場所の環境は、分類基準が必ずしも明確でないことや調査時の天候・積雪・水域凍結といった条件等により、年によりその割合はかなり異なって示される。例えば、昨年は畑・牧草地での割合が所在環境全体の3分の2程度を占めたが、今年は全体の3割弱にとどまっている。他方、比較的同程度の利用環境もいくつか見られ、堆肥場を利用しているのは3（2020-2022）年間でみると6-11%の範囲であり、河川利用は今年（10.3%）と昨年（11.2%）でほぼ同じ割合を示すし（図2参照）、50m以内の農家の存在も3（2020-2022）年間では3割から5割程度の範囲で認められる（図4参照）。

3. 繁殖状況

記録された幼鳥数は130羽で、12月調査より32羽増え、前年同期と比べても40羽も増えており、最近10（2013-2022）年間では2020年に次いで2番目の多さである。今回の記録総数には成鳥と幼鳥の区別がつかない2羽を含むため、これを除いた1,303羽の中の幼鳥割合は10.0%を示し、10（2012-2021）年間の平均9.2%を超え、割合でも3番目の高い値を示している。特に、前年の幼鳥数と総数におけるその割合が極端に低かったのに比べると、今年の繁殖はほぼ順調に行われたと推測できる。ただ、散在している繁殖個体群は、集団をつくる群れより幼鳥割合が一般に高い傾向を示し、今回は釧路管内での群れが見落とされた可能性があるため、全体的には幼鳥割合は今回の記録より多少低いかもしれない。

4. 総括と提言

昨年のタンチョウ越冬分布調査結果に対するコメントにおいて、冒頭で、鳥インフルエンザ発生に備えての確実な調査の必要性に触れたが、まさにその危険性が現実のものになりつつある。従ってその対応を考える基礎として、現状の分布や個体数の十分な把握はまさに必須の作業と言えよう。

今回の調査では、タンチョウが多く越冬する十勝・釧路・根室の3管内のうち、十勝と根室において従来記録を上回るような羽数が記録されて居り、その達成に尽力された関係者の方々へ改めて敬意を表したい。また、前年は幼鳥確認数が直近10年間で最低を示したが、今年は逆に高い水準を保ち、繁殖状況はさほど心配する必要がないことが示されたのは喜ばしい。

しかしながら、分布状況においても、また羽数把握の点からも、全体的に見て今回も十分な成果を挙げたとは言えない。その改善策として、三大給餌場における給餌量削減等によるタンチョウの生活リズムの変動や、ねぐらや採餌環境などの変化で生じた活動範囲の流動化等もふまえて、それに応じた調査方法の改善を検討し、実施することが求められよう。また、タンチョウに詳しい地元の方への調査対象地・調査方法・調査時刻等について事前に十分な聞き取りを行い、調査に遺漏の無いように心がけるべきである。

要するに、従来生息域とされている地域での固定した地点を対象とした調査だけではなく、近年タンチョウが道内の様々なところへ出現することを踏まえて、即応できる体制を作らねばならない。そのために、従来の様に限られた調査担当者のみならず、地域的にもより広く、人数面でもより多くの参加者からの情報収集を行なえる新たな方法の導入が不可避である。従って、従来から提言しているように、調査方法改善へ向けて論議できる場を、非公式な形でもよいから早急に設定することを強く要望したい。